

# 「現代の国語」から 「論理国語」へ ―小説の扱い方―

「現代の国語」を踏まえて「論理国語」で  
育成したい「書く力」

学習指導要領における「書くこと」の指導事  
項は、学習過程に沿って、次のような観点ごと  
に「現代の国語」から「論理国語」へつながら  
るように構成されています。

- 題材の設定、情報の収集、内容の検討
- 構成の検討
- 考えの形成、記述
- 推敲、共有

《各観点において重視されること（例）》

- 題材の設定、情報の収集、内容の検討

「現代の国語」

実社会の中から、集めた情報の妥当性や信頼性  
を吟味して伝えたいことや表現したいことを明  
確にすること。

「論理国語」

実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄につ  
いて、情報を収集・整理し、情報の妥当性や信  
頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確

にして、主張を支える適切な根拠をそろえるこ  
と。

- 構成の検討

「現代の国語」

読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情  
報の分量や重要度などを考えること。

「論理国語」

立場の異なる読み手を説得するために、批判的  
に読まれることを想定すること。

- 考えの形成、記述

「現代の国語」

根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、  
文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を  
工夫すること。

「論理国語」

多面的・多角的な視点から自分の考えを見直し  
たり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張  
を明確にすること。また、文章全体の論理の明  
晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章  
になるよう工夫すること。

- 推敲、共有

「現代の国語」  
目的や意図に応じて書かれているかなどを確か  
めること。

「論理国語」

文章の構成や展開、表現の仕方などについて、  
自分の主張が的確に伝わるように書かれている  
かなどを吟味すること。

「現代の国語」で身につけた力をもとに、批  
判的・創造的に考え論述するという、より高度  
な資質・能力を育成する「論理国語」へ。数研  
出版の教科書は、学習指導要領の内容を踏まえ、  
三年間のそれぞれの段階に適した学習・活動に  
取り組めるよう編集しています。

「大学入学共通テスト」第三問から窺える、  
今後ますます重視される力

学習指導要領と密接に関連している大学入学  
共通テスト。二〇二六年の共通テストでは、絵  
本に見られる表現・構成の工夫や、複数テキス  
トを比較検討する観点について考えさせる問題、



二〇二五年の共通テストでは、根拠の提示・妥当性や具体性といった文章構成の理解を問う問題が出題されました。

評論、小説、実用文など、さまざまな文章の表現・構成の工夫について検討したり、複数の文章を比較考察したり、明確で妥当な根拠を提示して自分の考えを述べたりする力が今後ますます重視されると考えられます。

弊社の教科書では、このような「書く力」を三年間を通して養えるよう、表現活動の具体的な手順を示した「言語活動の実践」というコーナーを次のように掲載しています。

■「批評文を書く」(増補新版 現代の国語)『改訂版 高等学校 現代の国語』『改訂版 新編 現代の国語』

\* 小説、映画、フアッション、広告など多様な分野を対象に自分の評価を論理的に書く

■「根拠を示して意見文を書く」(増補新版 現代の国語)『改訂版 現代の国語』

\* 特定のテーマについて論理的に意見文を書く

■「論文を書く」(情報を整理して考察しよう)『増補新版 論理国語』『高等学校 論理国語』

二〇二七年度用 数研出版「論理国語」教科書  
弊社は二〇二七年度用の「論理国語」の教科書を二点発行します。

『増補新版 論理国語』  
『高等学校 論理国語』

二点ともに、小説作品を収録しています。小説作品を用いた「書く活動」においても、弊社の『増補新版 現代の国語』『改訂版 高等学校 現代の国語』『改訂版 新編 現代の国語』の内容から発展した学習ができるようにしています。

【現代の国語での学習内容】

批評文の特徴を理解し、自分でも批評文を書く目的に合う内容を検討し、効果的に表現する。

【論理国語での学習内容】  
評論を批判的に読解し、自分の考えが的確に伝わるように論述する。

複数の文章を比較考察して自分の考えを明確に述べる。

数研出版「論理国語」二点の教科書における小説と関連する評論教材と小説作品の扱い方は次の通りです。以下が関連小説を示します。

■島内景二『友情』と『悔恨』の文学  
／中島敦『山月記』 (対応領域 書くこと)

\* 『友情』と『悔恨』の文学は、「山月記」の作品としての特徴を、中島敦の生涯や当時の友人関係なども踏まえて論じた評論です。「山月記」についての筆者の主張を批判的に読み、自分に引きつけて考えを書く活動を設定しています。

■柄谷行人「漱石の多様性」  
／夏目漱石「こころ」 (対応領域 書くこと)

\* 「漱石の多様性」では、「こころ」における「明治の精神」とは、明治時代において確立されていく近代国家体制の中で排除された多様な「可能性」そのものであることが述べられています。本文の内容を、夏目漱石の「こころ」と「現代日本の開化」とともに検討し、「明治の精神」について自分でも調べてレポートにまとめる活動ができます。

■松村圭一郎「個性とは何か」  
■ブレイディみかこ「他者の靴を履く」  
／川上弘美「ラッキーカーラーは黄」

(対応領域 書くこと)

\* 「個性とは何か」では、個人は「一貫したアイデンティティ」を持つ存在ではないことや、「個性」とはさまざまな環境でさまざまな人々と関係する中で作られていくものであることが、エチオピアの人々の考え方を例に述べられています。「他者の靴を履く」でも、自分のアイデンティティは他者との関わりを通して認識され、作られていくことが述べられており、二つの文章の共通点を読み取る学習ができます。名前とアイデンティティをテーマにした二つの評論の内容を踏まえ、小説「ラッキーカーラーは黄」で名前や呼び名にこだわりながら他者と関係を結んでいく「阿部さん」と「あたし」のやりとりを読み、アイデンティティについて理解を深め、自分の考えを書く活動ができます。

(数研出版編集部)